

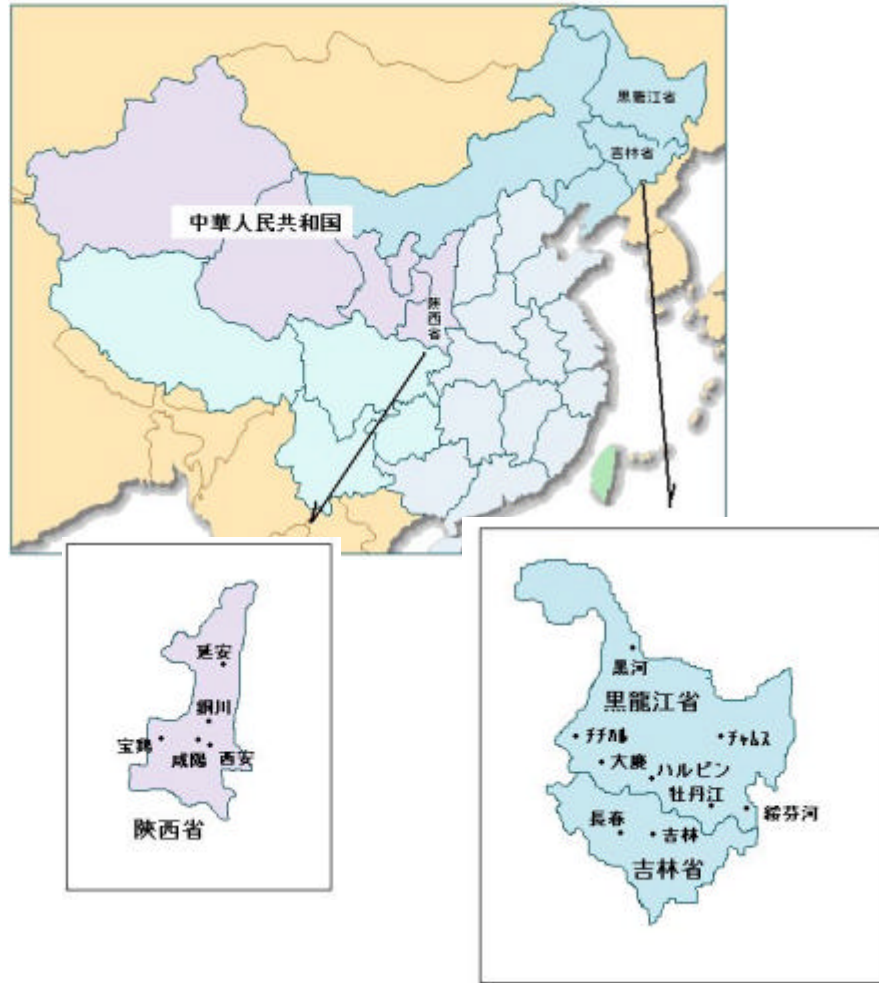
第2章 国際交流の展開

第1 友好・姉妹交流

1 中国黒龍江省との交流

本県と中国黒龍江省とは、昭和58年（1983年）8月5日新潟市において友好県省提携議定書に調印し、以来経済・文化・科学技術等広範な分野における交流と協力を行っている。

図2-1 黒龍江省・吉林省・陝西省



(1) 黒龍江省の概要

黒龍江省は、中国東北地区の最北部に位置し、北境は黒龍江（アムール川）東境はウスリー川を隔ててロシアと相對し、南は吉林省、西は内蒙古自治区に接する。

| | | | |
|---|---|----|--|
| ア | 面 | 積 | 45.48?（日本総面積の1.2倍。新潟県の36倍） |
| イ | 人 | 口 | 3,811万人（2001年）（新潟県246.3万人……2003年1月1日現在） |
| ウ | 省 | 都 | 哈爾濱(ハルビン)市 |
| | | 位置 | 北緯44°04' ~ 46°40'（新潟市37°48' ~ 37°59'） |
| | | 面積 | 56,579?（新潟市231.9?） |
| | | 人口 | 948万人（新潟市53万人） |
| エ | 民 | 族 | 総人口の94%を占める漢民族を主体に、モンゴル族、満族、朝鮮族、オロチョン族、ホジェン族等30以上の少数民族が居住する。 |
| オ | 省 | 長 | 張 左己 氏（2003年4月就任） |

(2) 友好県省提携までの経緯

中国東北地区には戦前多くの県人が居住していたこと、亀田郷土地改良区が三江平原（黒龍江省の東北部に広がる平原）の開発を早くから支援していたこと、新潟市が省都哈爾濱市と昭和54年（1979年）12月に友好都市提携を行ったことを背景として昭和58年（1983年）6月県議会・定例会において「中華人民共和国黒龍江省との友好関係促進に関する決議」が議決され、これに基づき同年8月友好提携が実現された。

友好県省提携以前の交流

- 昭和49年（1974年） 知事を団長とする第1次友好訪中団が訪中。
- 昭和53年（1978年） 知事を団長とする第2次友好訪中団が訪中。
- 昭和56年（1981年） 中国黒龍江省輸出商品交易会新潟県代表団が訪省。
- 昭和58年（1983年） 友好関係促進に関する決議が県議会で議決。
知事を団長とする第3次友好訪中団が訪省。
陳雷省長を団長とする黒龍江省訪日団が来県。
8月5日新潟市において友好協定を結ぶ。

(3) 友好県省提携後の主な交流事業

| 年度 | 内容 |
|-------------|--|
| 昭和59（1984）年 | 黒龍江省人民代表大会常務委員会代表団受入開始 省留学生受入開始 |
| 昭和60（1985）年 | 省医師等研修生受入開始 県議会訪中団を派遣開始 |
| 昭和61（1986）年 | 県省青年交流事業を開始 |
| 昭和63（1988）年 | 友好県省提携5周年記念事業を実施 県省経済交流促進会議を開始 |
| 平成元（1989）年 | 県職員派遣研修事業を開始 |
| 平成2（1990）年 | 省政府代表団（省長）を受入 県省定期会議を開始 |
| 平成3（1991）年 | 県省スポーツ交流を開始 県省教育交流事業を開始 |
| 平成4（1992）年 | 県省職業訓練指導者相互派遣事業を開始 日中国交正常化20周年記念中国セミナーを実施 県省水産研究者相互派遣事業を開始 |
| 平成5（1993）年 | 黒龍江省からの国際交流員招致を開始（JETプログラムによる） 省中国語語学講師受入を開始 友好県省提携10周年記念事業を実施 黒龍江省投資環境調査を実施 |
| 平成6（1994）年 | 新航路開設セミナーを実施 国民文化交流事業による県省高校生代表団の相互派遣を実施 北東アジア地域自治体会議代表団を受入 省婦人代表団を受入 |
| 平成7（1995）年 | 新潟県訪中代表団派遣 県省物産の常設展示場を相互に設置 ・黒龍江省産品常設展示場（三條市） ・新潟県産品常設展示場（哈爾濱市） 哈爾濱地方経済貿易商談会出展 東方水上シルクロードによる第1船「同濱」が新潟港、直江津港に入港 |
| 平成8（1996）年 | 技術協力可能性調査団派遣 黒龍江省公安交通管理視察団受入 |
| 平成9（1997）年 | 新潟 - 哈爾濱定期航空路開設決定 |
| 平成10（1998）年 | 中国産加工好適大豆選定のための共同研究開発 環境技術研修生受入開始 国際協力プロジェクト調査事業（環境分野）開始 新潟 - 哈爾濱定期航空路開設 友好県省提携15周年記念事業実施 |
| 平成11（1999）年 | 黒龍江省信訪代表団受入 県省環境保全セミナー開催 |
| 平成12（2000）年 | 松花江有害化学物質分析技術移転実施 |
| 平成13（2001）年 | 新潟県訪中代表団（知事）派遣 総合国際交流プロジェクト調査事業（医療、寒冷地舗装）実施 留学生ネットワーク推進事業 |
| 平成14（2002）年 | JICA草の根技術協力事業（医療、寒冷地舗装）実施 |
| 平成15（2003）年 | 友好県省提携20周年記念事業実施予定 |

(4) 友好県省提携後の主な定期交流事業

ア 行政関係県省定期会議（平成2年度～）（国際交流課）

当年度県省交流事業の具体化及び翌年度事業の企画について協議を行うもの。

表2-1-1 定期会議開催状況

| 年度 | 平8 | 平9 | 平10 | 平11 | 平12 | 平13 | 平14 | 平15 |
|----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|
| 時期 | 5月 | 4月 | 5月 | 8月 | 7月 | 4月 | 6月 | 未定 |
| 場所 | 哈爾濱市 | 新潟市 | 哈爾濱市 | 新潟市 | 哈爾濱市 | 新潟市 | 哈爾濱市 | 新潟市 |
| 受入 | - | 3人 | - | 3人 | - | 2人 | - | 2人 |
| 派遣 | 3人 | - | 3人 | - | 3人 | - | 3人 | - |

イ 黒龍江省留学生・研修生受入事業（昭和59年度～）（国際交流課）

新潟大学、県立がんセンターなどの留学生・研修生として、専門科目を研究するとともに、日本の風物文化の理解に努め、両県省民の相互理解と友好親善関係の促進に寄与することを目的とする。

表2-1-2 留学生・研修生受入状況

| 年度 | 平8 | 平9 | 平10 | 平11 | 平12 | 平13 | 平14 | 平15 | 合計 |
|--------|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 留学生 | 9人 | 8人 | 8人 | 8人 | 8人 | 8人 | 8人 | 8人 | 161人 |
| 技術研修生 | - | - | - | - | - | - | - | - | 2人 |
| 医師等研修生 | 2人 | 2人 | 2人 | 2人 | 2人 | 2人 | 2人 | 2人 | 38人 |

ウ 新潟県・黒龍江省経済交流促進会議（昭和63年度～）（産業政策課）

新潟県と黒龍江省の経済交流と貿易・物流の促進を図るために、相互に会議を開催する。

表2-1-3 経済交流促進会議開催状況

| 年度 | 時期 | 場所 | 受入 | 派遣 | 年度 | 時期 | 場所 | 受入 | 派遣 |
|-----|-----|--------------|-----|-----|-----|---------|------|----|-----|
| 昭63 | 11月 | 哈爾濱市 | - | 25人 | 平7 | 8月 | 新潟市 | 8人 | 25人 |
| 平1 | 中止 | (新潟市) | - | - | 平8 | 9月 | 哈爾濱市 | - | 19人 |
| 平2 | 10月 | 哈爾濱市 ・瀋陽市 | - | 23人 | 平9 | 9月 | 新潟市 | 4人 | - |
| 平3 | 8月 | 新潟市 | 10人 | - | 平10 | 10月 | 哈爾濱市 | - | 9人 |
| 平4 | 11月 | 哈爾濱市 | - | 19人 | 平11 | 12月 | 新潟市 | 3人 | - |
| 平5 | 8月 | 新潟市 | 14人 | - | 平12 | 10月 | 哈爾濱市 | - | 8人 |
| 平6 | 9月 | 哈爾濱市 | - | 19人 | 平13 | 10月 | 新潟市 | 3人 | - |
| | | | | | 平14 | 11月 | 哈爾濱市 | - | 3人 |
| | | | | | 平15 | 11月(予定) | 新潟市 | 未定 | - |

エ 県職員派遣研修事業（平成元年度～）（人事課）

県職員を黒龍江大学に派遣し、中国語学習を始めとする実地研修に当たらせ、職員の国際感覚と中国語力の養成に資する。

表2-1-4 県職員派遣状況

| 年度 | 平1 | 平2 | 平3 | | 平4 | 平5 | 平6 | 平7 |
|----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 期間 | 1.9～2.8 | 2.9～3.8 | 3.9～4.8 | 3.9～5.8 | 4.9～6.8 | 5.9～7.8 | 6.9～8.8 | 7.9～9.8 |
| 人数 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |

| 年度 | 平8 | 平9 | 平10 | 平11 | 平12 | 平13 | 平14 | 平15 |
|----|----------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 期間 | 8.9～10.8 | 9.9～11.8 | 10.9～12.8 | 11.9～13.8 | 12.9～14.8 | 13.9～15.8 | 14.9～16.8 | 15.9～17.8 |
| 人数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |

オ 新潟県・黒龍江省スポーツ交流事業（平成3年度～）（教育庁保健体育課）

国際性豊かなひとづくりと交流を深め、競技力の向上を図るために平成3年度からスポーツ交流事業を実施しており、両県省のスポーツ選手団の派遣と受入を交互に行っている。

表2-1-5 スポーツ交流状況

| 年度 | 期間 | 種目 | 受入 | 派遣 |
|-----|---------|-------------|-----|-----|
| 平3 | 8月～9月 | 柔道選手団 | - | 12人 |
| | 11月～12月 | 柔道コーチ | - | 1人 |
| 平4 | 5月 | 水泳選手団 | 12人 | - |
| | 11月～12月 | 体操コーチ | 1人 | - |
| 平5 | 8月 | レスリング選手団 | - | 12人 |
| | 11月～12月 | 柔道コーチ | - | 1人 |
| 平6 | 7月～8月 | 卓球コーチ | 1人 | - |
| | 8月 | 柔道選手団 | 12人 | - |
| 平7 | 7月～8月 | 水泳コーチ | - | 1人 |
| | 8月 | ボクシング選手団 | - | 12人 |
| 平8 | 7月～8月 | 重量挙げコーチ | 1人 | - |
| | 8月 | バスケットボール選手団 | 14人 | - |
| 平9 | 7月～8月 | レスリングコーチ | - | 1人 |
| | 8月 | バスケットボール選手団 | - | 14人 |
| 平10 | 7月～8月 | ボクシングコーチ | 1人 | - |
| | 9月 | レスリング選手団 | 14人 | - |
| 平11 | 8月 | 卓球選手団 | - | 11人 |
| 平12 | 7月 | 水泳選手団 | 11人 | - |
| 平13 | 8月 | 柔道選手団 | - | 11人 |
| 平14 | 8月 | 陸上競技選手団 | 11人 | - |
| 平15 | 8月(中止) | ハンドボール選手団 | - | 11人 |

カ 県省教育交流事業（平成3年度～）（教育庁総務課）

教育関係者の意見交換の場として、毎年交互に教育交流協議会を開催し、教育交流の促進と交流分野の拡大を図る。

表2-1-6 教育交流状況

| 年度 | 期間 | 受入 | 派遣 |
|-----|---------|----------|----------|
| 平3 | 11月～12月 | 省教育代表団4人 | - |
| 平4 | 5月 | - | 県教育代表団5人 |
| 平5 | 8月 | 省教育代表団5人 | - |
| | 10月 | - | 県教育代表団5人 |
| 平6 | 11月～12月 | 省教育代表団4人 | - |
| 平7 | 10月 | - | 県教育代表団5人 |
| 平8 | 10月 | 省教育代表団4人 | - |
| 平9 | 10月 | - | 県教育代表団5人 |
| 平10 | 水害のため中止 | | |
| 平11 | 5月 | 省教育代表団5人 | - |
| 平12 | 休止 | | |
| 平13 | 10月 | - | 県教育代表団4人 |
| 平14 | 11月 | 省教育代表団4人 | - |
| 平15 | 10月(予定) | - | 県教育代表団4人 |

キ 水産研究者相互派遣交流事業（平成4年度～）（水産課）

県省の水産研究者による交流を通じて有用淡水魚の相互移植、増養殖技術開発を行うもの。平成13年度からは、研究者の受入派遣は必要に応じ実施し、情報交換を主体として実施する。

表2-1-7 水産研究者派遣・受入状況

| 年度 | 期間 | 場所 | 受入 | 派遣 |
|-----|-------|------------------|----|----|
| 平5 | 2月 | 県内水面水産試験場 | 2人 | - |
| | 8月 | 省農墾科学院 | - | 2人 |
| 平6 | 6月 | 県内水面水産試験場 | 3人 | - |
| | 8月~9月 | 黒龍江省水産局 | - | 2人 |
| 平7 | 12月 | 県内水面水産試験場 | 3人 | - |
| | 8月 | 黒龍江省水産局 | - | 2人 |
| 平8 | 8月 | 県内水面水産試験場 | 3人 | - |
| | 9月 | 黒龍江省水産局 | - | 2人 |
| 平9 | 10月 | 県内水面水産試験場 | 3人 | - |
| | 7月 | 黒龍江省水産局 | - | 2人 |
| 平10 | 8月 | 県内水面水産試験場 | 3人 | - |
| | 6月 | 黒龍江省水産局 | - | 2人 |
| 平11 | 9月 | 県内水面水産試験場 | 3人 | - |
| 平12 | 7月 | 黒龍江省水産局 | - | 2人 |
| 平13 | 随時 | 新魚(品)種の相互導入、情報交換 | - | - |
| 平14 | 随時 | 情報交換 | - | - |

ク 県立新潟女子短期大学中国語講師受入事業（平成5年度～）（文書私学課）

国際教養学科の新設に伴い、平成5年度から中国語教員を受入れている。

表2-1-8 中国語講師受入状況

| 年度 | 平9 | 平10 | 平11 | 平12 | 平13 | 平14 | 平15 |
|----|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 期間 | 9.4～10.3 | 10.4～11.3 | 11.4～12.3 | 12.4～13.3 | 13.4～14.3 | 14.4～15.3 | 15.4～16.3 |
| 人数 | 1人 | 1人 | 1人 | 1人 | 1人 | 1人 | 1人 |

ケ 環境分野における交流事業（平成10年度～）（環境企画課）

黒龍江省との環境分野における交流として、研修生の受入や環境分野での現地技術指導など協力事業を実施している。

a 環境技術研修員の受入

平成10年度から毎年1名の研修生を約8ヶ月にわたり、県保健環境科学研究所などで受け入れ、環境分析技術等に関して研修を行っている。

表2-1-9 環境技術研修員の受入状況

| 年度 | 平10 | 平11 | 平12 | 平13 | 平14 | 平15(予定) |
|------|-----------|----------------|-----------|-----------|------------|----------------|
| 人数 | 1人 | 1人 | 1人 | 1人 | 1人 | 1人 |
| 研修内容 | 大気モニタリング等 | 水質中の有害化学物質の分析等 | 大気モニタリング等 | 水質モニタリング等 | 有害化学物質の分析等 | 水質中の有害化学物質の分析等 |

b 国際協力プロジェクト調査事業

環境分野での協力の進め方を検討するため、平成12年度まで以下の事業を実施した。

- ・ 平成10年度：環境分野における黒龍江省の現状と課題の把握
- ・ 平成11年度：環境保全セミナーの開催
- ・ 平成12年度：有害化学物質の分析技術移転の実施

c 黒龍江省現地技術指導事業

黒龍江省における有害化学物質等の対策に資するため、環境調査や分析技術の現地指導やセミナーを開催する。平成13年度から環境関係技術者を派遣し、有害化学物質の分析技術の指導等を実施している。平成15年度は10月頃に3名を派遣する予定。

コ 黒龍江省人民代表大会常務委員会との交流（友好県省提携後の主な定期交流事業）
（昭和59年から）（議会事務局総務課）

黒龍江省人民代表大会常務委員会との相互理解と友好親善を深め、経済交流等の円滑な推進を図るため、隔年で相互に派遣する。

表2-1-10 派遣・受入状況

| 年度 | 昭59 | 昭60 | 昭61 | 平元 | 平2 | 平4 | 平6 | 平8 | 平10 | 平12 | 平14 |
|-------|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 派遣（人） | - | 12 | - | - | 13 | 13 | 13 | 13 | 12 | 13 | 13 |
| 受入（人） | 6 | - | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 13 | 13 | 13 | 14 |

2 中国吉林省との交流

(1) 吉林省の概要

中国東北地区の中部に位置し、東部と北東部はロシア並びに北朝鮮に接する。北部は黒龍江省、西部は内蒙古自治区に隣接する。

| | |
|------|--|
| ア 面積 | 18.74? (日本総面積の約半分、新潟県の15倍) |
| イ 人口 | 2,637万人(2001年) |
| ウ 省都 | 長春市 |
| エ 民族 | 総人口の89%を占める漢民族を主体に、朝鮮族、モンゴル族、満族、回族等30以上の少数民族が居住する。 |
| オ 省長 | 洪 虎氏(1999年2月就任) |

(2) 本県との交流の経緯

中朝国境にまたがる図們江地域の開発が国連の主導により、北東アジア地域の新たな拠点として国際的な注目を集める中、吉林省も国境を接するロシア・北朝鮮に海の出口を求め、また、本県を含む日本海沿岸地域との交流を推進している。本県としても、経済、文化、教育、科学技術などの各分野における交流を図るべく、平成7年6月に知事を団長とする代表団が訪問、航路と航空路の実現に向けた協議や図們江地域の視察を行うとともに王雲坤省長代理(当時)との間で友好交流に関する覚書に調印し、以来覚書に基づき留学生を受け入れているほか、中国吉林省・日本国日本海沿岸4県企業情報交換会開催等の交流を進めている。

新潟県と吉林省との交流年表

| | |
|--------------|---|
| 平成3年(1991年) | ・吉林省向陽紅16号船学術交流団来県 |
| 平成5年(1993年) | ・吉林省副省長など来県。琿春・図們江地区開発説明会を開催 ・吉林省図們江開発交流団が来県。琿春・図們江地域開発説明会を開催 |
| 平成6年(1994年) | ・吉林省鉄路港口指揮部代表が来県。ザルビノルート説明会を開催 ・中国新航路開設促進新潟県代表団訪中 ・新潟市で中国新航路活用セミナー開催 ・新潟市でザルビノ港整備技術検討委員会開催 |
| 平成7年(1995年) | ・新潟市で第5回北東アジア経済フォーラム開催 ・吉林省副省長など来県。知事表敬、東港・空港を視察 ・新潟県訪中代表団長春、琿春等を訪問 |
| 平成8年(1996年) | ・吉林省留学生受入開始(1人、1年間) ・第1回中国吉林省・日本国日本海沿岸4県製品技術展覧会開催 |
| 平成9年(1997年) | ・吉林省経済交流考察団受入 ・吉林省省長訪日団受入 |
| 平成10年(1998年) | ・吉林省副省長来県、吉林省開発・投資セミナー開催 |
| 平成11年(1999年) | ・第1回中国吉林省・日本国日本海沿岸4県企業情報交換会参加 |
| 平成12年(2000年) | ・第2回中国吉林省・日本国日本海沿岸4県企業情報交換会参加、図們江地域視察 ・吉林省経済訪日代表団受入 |
| 平成13年(2001年) | ・第3回中国吉林省・日本国日本海沿岸4県企業情報交換会参加 |

3 中国陝西省との交流

(1) 陝西省の概要

中国の中央部に位置し、東は山西省・河南省、南は湖北省、西は甘肅省、北は内蒙古自治区・寧夏回族自治区に接している。

| | |
|------|---------------------------------------|
| ア 面積 | 20.56? (日本総面積の半分強、新潟県の17倍) |
| イ 人口 | 3,658万人(2001年) |
| ウ 省都 | 西安市 |
| エ 民族 | 総人口の99.5%を占める漢民族を主体に、回族等45の少数民族が居住する。 |
| オ 省長 | 賈 治邦 氏(2003年1月就任) |

(2) 本県との交流の経緯

双方による定期航空路開設の働きかけをきっかけに交流が始まった。

新潟県と陝西省との交流年表

- 平成9年（1997年）
 - ・新潟県代表団（団長：平山知事）を派遣し、定期航空路線開設を協議
 - ・定期チャーター第1便で県内外官民合同「日中友好の翼」訪問団（団長：川村副知事）を派遣
 - ・新潟県日中友好協会と陝西省人民対外友好協会とで友好交流関係提携の覚書調印
- 平成10年（1998年）
 - ・新潟-上海-西安定期航空路線の開設。初便には県省双方が代表団を派遣
 - ・洋県トキ視察団の派遣
 - ・陝西省洋県視察団受入（団長：鐘高適省林業庁長）
 - ・陝西省人民対外友好協会代表団受入（団長：楊玉田顧問）
 - ・国賓として来日した江沢民中国国家主席が、日本に対するトキのペア贈呈を表明
- 平成11年（1999年）
 - ・トキのペア（洋洋・友友）が佐渡トキ保護センターへ引き渡される（雛「優優」誕生）
 - ・陝西省トキ保護協力に関する覚書を取り交わす
 - ・陝西省留学生受入（1人、1年間）
 - ・「中国の正倉院 法門寺地下宮殿の秘宝～唐皇帝からの贈り物展」開催
 - ・「新潟-西安トキ・ライン 中国陝西省フェア」開催
- 平成12年（2000年）
 - ・新潟県訪問団（団長：平山知事）を派遣し、トキ保護協力、定期路線拡充について協議
- 平成13年（2001年）
 - ・陝西省留学生受入（1人、1年間）
 - ・トキの雛13羽が誕生
- 平成14年（2002年）
 - ・陝西省人民政府代表団来県（団長：呂国増省長助理）
 - ・トキの雛12羽が誕生
 - ・陝西省水害に対し見舞金を贈呈

(3) 日中トキ国際交流事業（環境企画課）

本県におけるトキ保護増殖事業の進展には、中国との交流が不可欠であることから陝西省人民政府におけるトキ保護増殖事業への支援を行っている。

4 中国広東省人民代表大会常務委員会との交流（議会事務局総務課）

(1) 広東省の概要

中国南部に位置し、南海に臨んで、北部は湖南省・江西省、西部は広西チワン族自治区、東部は福建省に隣接する。

- ア 面積 177,900?（日本総面積の約半分、新潟県の14倍）
- イ 人口 7,783万人（2001年）
- ウ 省都 広州市（面積 1,444?、人口 約400万人）
- エ 民族 漢族、ヨウ族、チワン族、回族、満族、シヨオ族
- オ 主任 盧 鐘鶴氏（2003年1月就任）

(2) 本県議会との交流の経緯

平成7年7月、県議会議員有志が、訪中時に広東省人民代表大会常務委員会と懇談し、友好交流について話題となった。翌年7月、県議会訪中代表団が広東省を訪問し、友好交流を推進することで意見が一致し、平成9年1月広東省人民代表大会常務委員会での友好交流儀式において、相互理解と友好親善を深め、経済交流等の円滑な推進を図るため、星野伊佐夫議長と朱森林主任との間において、書面で協定を締結した。

新潟県議会と広東省人民代表大会常務委員会との交流実績

| 年度 | 平8 | 平9 | 平11 | 平12 | 平13 | 平14 | 平15 |
|-------|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 派遣(人) | 7 | 18 | 12 | 13 | - | 13 | - |
| 受入(人) | - | 12 | 11 | - | 11 | - | 13 |

平成14年度の受入が平成15年度に延期された。

5 米国イリノイ州との交流

(1) イリノイ州の概要

イリノイ州はアメリカ合衆国中西部の代表的な州で、五大湖の一つミシガン湖の南西部にあり、アイオワ、ミズーリ両州との境にはミシシッピ川が流れている。州内にはほとんど山がなく、プレーリー・ステート（大草原州）とも呼ばれている。概要は以下のとおり。

| | | |
|---|-----|---|
| ア | 面積 | 約146,000? |
| | | (全米第24位。北海道、九州及び四国を合わせた大きさ、新潟県の約12倍) |
| イ | 人口 | 約12,419千人(2000年)(全米第5位、新潟県の約5.0倍) |
| ウ | 州都 | スプリングフィールド 北緯40° 人口約111千人 |
| | | (新潟市 北緯37° 53' 人口529千人) |
| エ | 産業 | 州最大の都市シカゴは、製造業、金融、サービス業などの集積度の高い大ビジネスセンターであり、五大湖工業地帯の中心である。また、州中部から南部にかけては、広大なコーンベルト地帯が広がり、大農業地帯となっている。 |
| オ | 知事 | ロッド・R・ブラゴヤヴィッチ氏(民主党) |
| カ | その他 | 第16代大統領リンカーンが人生の大半を過ごし、政治家として大成したことで有名であり、今でも「Land of Lincoln」と称し、州民はそれを誇りとしている。 |

図2-2 イリノイ州



(2) 本県との交流の経緯

昭和63年、地方自治体が誘致した全国で初の外国大学として、州南部カーボンデールにある州立のサザン・イリノイ・ユニバーシティ (SIUC) の新潟校が北蒲原郡中条町に開学した。世界に広がる国際交流の拠点を目指す当県は、これを機にイリノイ州との友好関係を深めていくことでトンプソン州知事(当時)との間で合意した。

- (3) その後の進展と県幹部の往来
- 平成元年10月 「新潟・イリノイ教育・経済開発評議会設立に関する協定書」調印（金子知事 - トンプソン知事、於：イリノイ州）
 - 平成 2年 4月 第1回新潟・イリノイ教育・経済開発評議会開催（金子知事 - トンプソン知事ほか、於：新潟市）
 - 平成 3年 8月 県知事会談（金子知事 - エドガー知事、於：イリノイ州）
 - 平成 6年 7月 県知事会談（平山知事 - カストロ副知事（エドガー知事病氣療養中のため）於：イリノイ州）
 - 平成 8年 9月 交流継続に関する合意書調印（平山知事 - エドガー知事、於：新潟市）

(4) 平成14年度交流事業

ア 高校生の短期ホームステイ（昭和63年度～）（高等学校教育課）

新潟県内高校生の派遣、イリノイ州内高校生の受入を実施している。

表2-1-11

| 年度 | イリノイ州への派遣 | | 新潟県での受入 | |
|--------|-----------|-----|---------|-----|
| | 期間 | 人数 | 期間 | 人数 |
| 昭和63 | 25日 | 20人 | | |
| 平成元 | 25日 | 30人 | 16日 | 11人 |
| 2 | 25日 | 30人 | 16日 | 19人 |
| 3 | 25日 | 30人 | 14日 | 10人 |
| 4 | 25日 | 30人 | 14日 | 17人 |
| 5 | 25日 | 30人 | 15日 | 20人 |
| 6 | 25日 | 35人 | 16日 | 20人 |
| 7 | 25日 | 31人 | 16日 | 19人 |
| 8 | 25日 | 36人 | 16日 | 20人 |
| 9 | 25日 | 33人 | 15日 | 20人 |
| 10 | 25日 | 32人 | 15日 | 15人 |
| 11 | 25日 | 32人 | 15日 | 20人 |
| 12 | 24日 | 27人 | 15日 | 15人 |
| 13 | 24日 | 25人 | 15日 | 15人 |
| 14 | 24日 | 25人 | 15日 | 13人 |
| 15(予定) | 24日 | 25人 | 15日 | 15人 |

イ イリノイ州から国際交流員（C I R）を招致（国際交流課）

(5) 過去の主な交流事業

ア 新潟紹介展示・物産展（平成3～10年度）

県の産業、文化、生活などを幅広く州民に紹介し、民間交流への契機とするため、イリノイ州で開催した。

平成3～4年度： イリノイ州ステートフェアに参加（スプリングフィールド）

平成5～8年度： シカゴ新潟展（平成6年度のみスプリングフィールドでも開催）

イ イリノイ州フェスティバル（平成6年度）

イリノイ州を広く県民に紹介するため、新潟・イリノイ交流物産展及びイリノイ州セミナーを新潟市で開催した。

ウ シカゴ美術館所蔵品展（平成6年度）

平成6年4～5月： 県立近代美術館で開催した。

エ シカゴ交響楽団新潟公演（平成7年度）

平成7年5月30日： 新潟県民会館で開催した。

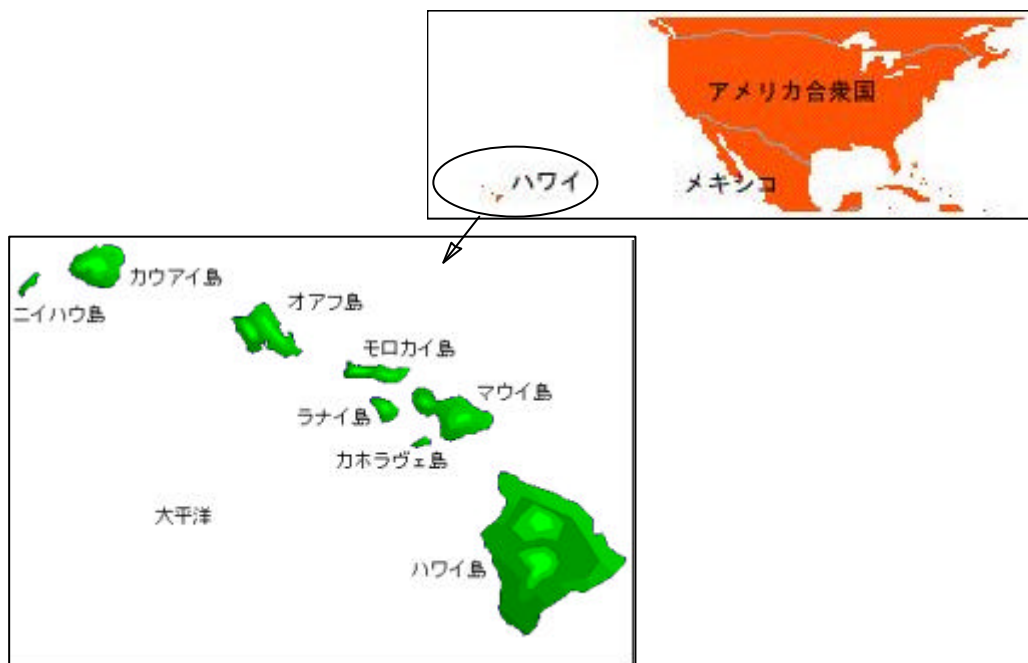
6 米国ハワイ州との交流

(1) ハワイ州の概要

ハワイ州は太平洋に浮かぶ島々で構成されており、1959年にアメリカの50番目の州となった。主要な島はオアフ島、ハワイ島、マウイ島、カウアイ島などで、ハワイ島にはマウナロア、マウナケアの火山やカウ砂漠など、雄大な自然が残されている。また、オアフ島には州都ホノルルがあり、州の各種施設や組織などが集積している。概要は以下のとおり。

| | | | |
|---|---|---|---|
| ア | 面 | 積 | 16,729? (陸地面積16,636?、全米第47位。新潟県の約1.3倍) |
| イ | 人 | 口 | 1,212千人(2000年) |
| ウ | 州 | 都 | ホノルル 北緯20° 人口約644千人(新潟市 北緯37° 53' 人口529千人) |
| エ | 産 | 業 | ハワイの産業は観光業が総収入の4分の1を占めており、その他砂糖産業、パイナップル産業、水産業、建築業等がある。現在ではマカデミア・ナッツやコーヒー園経営への転換による新産業育成の努力がなされている。 |
| オ | 知 | 事 | リンダ・リングル氏(共和党) |
| カ | そ | の | 他 |
| | | | ハワイの州鳥はハワイだけに生息するガチョウの仲間の「ネネ」であるが、ネネは1949年に州鳥に指定され、保護プログラムができるまでは絶滅の危機に瀕していた。現在では3,000羽あまりに回復している。 |

図2-3 ハワイ州



(2) 本県との交流の経緯

平成8年、新潟空港2,500m滑走路供用開始記念チャーター便で新潟県代表团がハワイ州を訪問し、ハワイ空路の定期路線化についてハワイ州知事ほかにも協力を要請した。その後、平成11年12月、ハワイ州代表团が来県し、行政、経済、教育面での相互交流が始まった。

(3) 主な往来

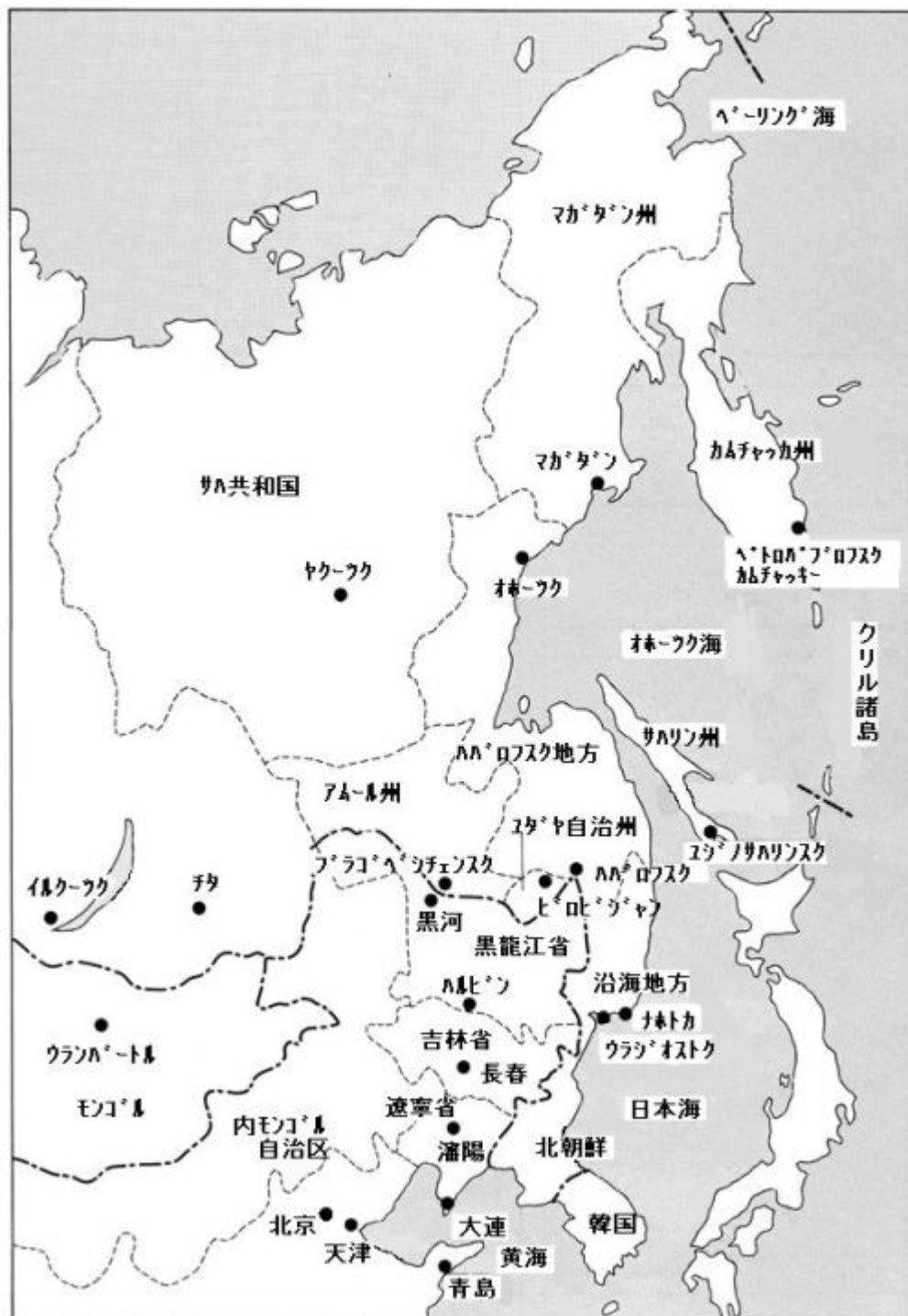
| | |
|----------------|---|
| 平成 8年(1996) 3月 | 新潟空港2,500m滑走路供用開始記念チャーター訪問団(本間出納長ほか)が訪州 |
| 平成10年(1998) 7月 | プログラムチャーター初便訪問団(江頭港湾空港局長ほか)が訪州 |
| 12月 | 新潟 - ホノルル定期路線開設記念訪問団(今井副知事ほか)が訪州 |
| 平成11年(1999)11月 | 新潟 - ハワイ教育・経済交流訪問団(森空港課長ほか)が訪州 |
| 12月 | ハワイ州代表团(セイ州下院議長ほか)が来県 |
| 平成12年(2000) 5月 | ハワイ州代表团(ナカタニ農業委員会委員長ほか)が来県 |
| 7月 | 磯部副知事ほか訪州 |
| 11月 | 北米西岸ミッション(平山知事ほか)が訪州 |
| 平成14年(2002) 9月 | ハワイ州ミッションが来県し、海洋深層水に関するセミナーを共同開催(真野町、新潟市)(新潟市において、ハワイ政府観光局による観光関連イベントも同時期に開催) |

7 ロシア沿海地方との交流

(1) 沿海地方の概要

| | |
|-----------|--------------------------------|
| ア 面 積 | 165,900? (日本総面積の2分の1、新潟県の約13倍) |
| イ 人 口 | 221.4万人(2001年) |
| ウ 州 都 | ウラジオストク市 人口61.6万人 |
| エ 人 口 構 成 | ロシア人87%、ウクライナ人8%など |
| オ 地方政府知事 | ダリキン・セルゲイ・ミハイロヴィッチ |

図2-4 ロシア連邦 極東地域



(2) 本県との交流の経緯

平成2年9月に、知事を団長とするロシア極東地域経済視察団が沿海地方を訪問し、同地方執行委員会との間でコミュニケを交わしたことにより、当県と同地方との交流の端緒が開かれた。続く平成4年2月の地方長官来県時に、双方の友好関係はより具体化され、平成5年度には、交流拡大を目指した「交流協力事業計画」(アクションプログラム)の策定・調印へと発展した。それ以降次年度の事業内容について協議するため、毎年交互に職員を派遣し会議を開催している。

(3) コミュニケ調印後の進展と主な出来事

| 実施年度 | 主 な 事 業 |
|------|--|
| 平2 | 日本語教師派遣調査の目的で県・市合同調査を派遣 グズネツォフ沿海地方長官来県 |
| 平3 | ウラジオストク市へ日本語教師派遣開始 |
| 平4 | 新潟 - ウラジオストク間のチャーター便「友好の翼」使節団派遣 ウラジオストク解放記念「県民の船」使節団派遣 新潟 - ウラジオストク姉妹港協定調印 職員派遣開始 |
| 平5 | 県議会代表団派遣 新潟 - ウラジオストク間定期航空路開設 新潟 - ウラジオストク線就航記念・新潟県代表団の派遣 新潟・ウラジオストク姉妹港フェアの開始 県費留学生受入開始 県・地方定期会議の開始 |
| 平6 | 市場経済化セミナーの開催・「極東環太平洋消費物資展」に出展 第2回日口極東知事会議開催 |
| 平7 | ロシア極東官民合同ミッション派遣 「極東環太平洋消費物資展」に出展 |
| 平8 | 県立海洋高等学校の航海訪問の開始 新潟アジア文化祭への招聘開始 |
| 平12 | 観光開発促進ミッション派遣 |
| 平13 | 観光開発促進ミッション派遣 |
| 平14 | 観光開発促進ミッション派遣 ロシア極東青少年音楽家・芸術家使節団受入 |
| 平15 | 新潟 - ウラジオストク線開設10周年関連ミッション派遣 |

(4) 主な定期交流事業

ア 交流協力事業計画(アクションプログラム)定期会議(平成5年度～)(国際交流課)
当年度県地方交流事業の具体化及び次年度事業の計画についての協議を行う。

表2-1-12

| 年度 | 時 期 | 開催地 | 受入 | 派遣 |
|-----|-------------|----------|----|----|
| 平5 | 平成6年1月 | ウラジオストク市 | - | 4人 |
| 平6 | 平成7年1月 | 新潟市 | 4人 | - |
| 平7 | 平成8年2月 | ウラジオストク市 | - | 4人 |
| 平8 | 平成9年2月 | 新潟市 | 4人 | - |
| 平9 | 平成10年2月 | ウラジオストク市 | - | 4人 |
| 平10 | 平成11年3月 | 文書による協議 | - | - |
| 平11 | 平成12年2月 | ウラジオストク市 | - | 3人 |
| 平12 | 平成13年2月 | 文書による協議 | 3人 | - |
| 平13 | 平成14年2月 | ウラジオストク市 | - | 3人 |
| 平14 | 平成15年3月 | 文書による協議 | - | - |
| 平15 | 平成16年2月(予定) | ウラジオストク市 | - | 3人 |

イ 職員派遣（平成4年度～）（国際交流課）

県職員を極東国立大学に派遣し、職員のロシアとの交流促進に必要な知識とロシア語力の養成に資する。

表2-1-13

| 年度 | 期間 | 人数 |
|-----|------|----|
| 平4 | 10ヵ月 | 2人 |
| 平5 | 10ヵ月 | 2人 |
| 平6 | 10ヵ月 | 2人 |
| 平7 | 10ヵ月 | 1人 |
| 平8 | 10ヵ月 | 1人 |
| 平9 | - | - |
| 平10 | 10ヵ月 | 1人 |
| 平11 | 10ヵ月 | 1人 |
| 平12 | 10ヵ月 | 1人 |
| 平13 | 10ヵ月 | 1人 |
| 平14 | 10ヵ月 | 1人 |
| 平15 | - | - |

ウ 留学生受入（平成5年度～）（国際交流課）

新潟大学などの留学生として、専門科目を研究するとともに、日本の風物文化の理解に努め、両県地方の相互理解と友好善隣関係の促進に寄与することを目的とする。

表2-1-14

| 年度 | 期間 | 人数 | 受入機関 |
|-----|----|----|------|
| 平5 | 1年 | 1人 | 新潟大学 |
| 平6 | 1年 | 1人 | 新潟大学 |
| 平7 | 1年 | 1人 | 新潟大学 |
| 平8 | 1年 | 1人 | 新潟大学 |
| 平9 | 1年 | 1人 | 新潟大学 |
| 平10 | 1年 | 1人 | 新潟大学 |
| 平11 | 1年 | 1人 | 新潟大学 |
| 平12 | 1年 | 1人 | 新潟大学 |
| 平13 | 1年 | 1人 | 新潟大学 |
| 平14 | 1年 | 1人 | 新潟大学 |
| 平15 | 1年 | 1人 | 新潟大学 |

エ 水産技術交流（平成4年度～）（水産課）

水産海洋研究所とウラジオストクにあるチンロセンター（太平洋漁業科学研究センター）との「科学技術交流協定」に基づいて、共同調査・研究を行う。

表2-1-15

| 年度 | スルメイカ 生態共同調査 | | | 浮魚類 生態共同調査 | | | 新加工技術開発共 同研究 | | | 沿岸漁場開発 共同調査 | | |
|-----|-----------------|----|----|---------------|----|----|-----------------|----|----|----------------|----|----|
| | 時期 | 受入 | 派遣 | 時期 | 受入 | 派遣 | 時期 | 受入 | 派遣 | 時期 | 受入 | 派遣 |
| 平9 | 9月 | 2人 | | 9~10月 | 2人 | | 9月 | 2人 | | 9~10月 | | 2人 |
| 平10 | 8~9月 | 2人 | | 7月 | 2人 | | 9月 | | 2人 | | | |
| 平11 | 8~9月 | 2人 | | 7月 | 2人 | | 5月 | 2人 | | | | |
| 平12 | | | | | | | 5月 | 2人 | | | | |
| 平13 | | | | | | | - | - | | | | |
| 平14 | | | | | | | 9月 | 2人 | | | | |
| 平15 | | | | | | | 9月 | 2人 | | | | |

オ 姉妹港交流

ロシア・ウラジオストク港との友好交流

・姉妹港協定の締結(平成4年度～)

平成4年11月に、新潟港とウラジオストク商業港との間で締結した姉妹港協定に基づき、平成10年まで、姉妹港フェアを相互に実施した。

表2-1-16

| | | | | | | |
|-----|-----|-----------|-----|-----------|-----------|------|
| 年度 | 平 5 | 平 6 | 平 7 | 平 8 | 平 9 | 平 10 |
| 時期 | 8 月 | 8 月 | 8 月 | 8 月 | 10 月 | 8 月 |
| 開催地 | 新潟市 | ウラジ`オストク市 | 新潟市 | ウラジ`オストク市 | ウラジ`オストク市 | 新潟市 |

・新姉妹港協定の締結(平成12年度～)

平成12年7月に、新潟港・ウラジオストク商業港にウラジオストク港務局を加えた3者による新姉妹港協定を締結し、毎年交互に代表団を派遣している。平成14年度はウラジオストクから代表団を受け入れ、港湾の活性化について意見交換を行った。

カ 文化交流

ロシア沿海地方アートクルーズ(ロシア極東青少年音楽家・芸術家使節団)

沿海地方で行われた国際音楽コンクールに入賞し、将来活躍が期待されるロシア極東の音楽家、芸術家及び沿海地方行政政府、モスクワの音楽学院教授等約150名が船で日本(新潟)と韓国(釜山)を訪問し、青少年音楽家等との交流を行うもの。

・平成14年

開催日時：平成14年7月15,16日

訪問者：国際音楽コンクールに入賞したロシア極東の青少年音楽家・芸術家 119名
沿海地方行政政府、モスクワの音楽学院教授等 38名

交流内容：新潟中央高校との交流コンサート
船上交流会、他

・平成15年(時期未定)

8 ロシア ハバロフスク地方との交流

(1) ハバロフスク地方の概要

- ア 面積 788,600? (日本総面積の2倍以上、新潟県の約63倍)
- イ 人口 153.5万人(2001年)
- ウ 州都 ハバロフスク市 人口61.2万人
- エ 人口構成 ロシア人86%、ウクライナ人6%など
- オ 地方政府知事 イシャーエフ・ヴィクトル・イヴァーノヴィチ

(2) 本県との交流の経緯

平成2年9月に知事を団長とするロシア極東地域経済視察団がハバロフスク地方を訪問した際、同地方執行委員会との間でコミュニケが交わされ、当県と同地方の交流の端緒が開かれた。平成5年度には、両地域間の交流拡大を図るため、同地方政府との間で、具体的な交流事業を盛り込んだ「交流協力事業計画」(アクションプログラム)を策定・調印し、それ以降次年度の事業内容について協議するため、毎年交互に職員を派遣し会議を開催している。

(3) コミュニケ調印後の進展と主な出来事

| 実施年度 | 主な事業 |
|------|---|
| 平2 | ハバロフスク地方執行委員会代表団来県(リトヴィノフ他) ハバロフスク地方人民代議員議会ダニリュク議長一行6名来県 |
| 平3 | 「ハバロフスク日本産業展91」への出展 ハバロフスク地方小児医療支援資金への募金呼掛け 語学研修生派遣開始 |
| 平4 | 語学研修生受入開始 ハバロフスク環太平洋消費物資展参加 |
| 平5 | 県議会代表団派遣 行政事情研修職員相互派遣開始 新潟-ハバロフスク線開設20周年記念代表団派遣 在ハバロフスク日本総領事館開設 県・地方定期会議の開始 |
| 平6 | 市場経済化セミナー開催 第2回日本・ロシア極東知事会議開催 |
| 平7 | ロシア極東官民合同ミッション会議 「北東アジア地域自治体会議'95参加」 |
| 平8 | 県立女子短期大学学生の短期語学体験研修開始 新潟アジア文化祭への招聘開始 |
| 平12 | 観光開発促進ミッション派遣 |
| 平13 | 観光開発促進ミッション派遣 |
| 平14 | 観光開発促進ミッション派遣 |
| 平15 | 新潟-ハバロフスク線開設30周年関連ミッション派遣 |

(4) 主な定期交流事業

- ア 交流協力事業計画(アクションプログラム)定期会議(平成5年度~)(国際交流課)
当年度県地方交流事業の具体化及び次年度事業の企画についての協議を行う。

表2-1-17

| 年度 | 時 期 | 開催地 | 受入 | 派遣 |
|-----|-------------|---------|----|----|
| 平5 | 平成6年1月 | ハバロフスク市 | - | 4人 |
| 平6 | 平成7年3月 | 新潟市 | 4人 | - |
| 平7 | 平成8年12月 | ハバロフスク市 | - | 4人 |
| 平8 | 平成9年1月 | 新潟市 | 4人 | - |
| 平9 | 平成10年1月 | ハバロフスク市 | - | 4人 |
| 平10 | 平成11年2月 | 新潟市 | 2人 | - |
| 平11 | 平成12年2月 | ハバロフスク市 | - | 3人 |
| 平12 | 平成13年2月 | 新潟市 | 3人 | - |
| 平13 | 平成14年2月 | ハバロフスク市 | - | 3人 |
| 平14 | 平成15年3月 | 新潟市 | 3人 | - |
| 平15 | 平成16年2月(予定) | ハバロフスク市 | - | 3人 |

イ 行政研修職員相互派遣（平成4年度～）（国際交流課）

両県地方の行政事情についての相互理解を深めるため、職員を相互に派遣する。

表2-1-18

| 県職員派遣（派遣先：ハバロフスク市） | | | 地方政府職員受入（受入地：新潟市） | | |
|--------------------|-------------|----|-------------------|-------------|----|
| 年度 | 研修期間 | 人数 | 年度 | 研修期間 | 人数 |
| 平4 | 9.21～9.26 | 6人 | 平4 | 5.24～6.1 | 5人 |
| 平5 | 12.20～12.24 | 6人 | 平5 | 6.14～6.21 | 5人 |
| 平6 | 12.12～12.16 | 6人 | 平6 | 6.13～6.18 | 6人 |
| 平7 | 12.18～12.22 | 6人 | 平7 | 7.24～7.29 | 6人 |
| 平8 | 7.22～7.26 | 6人 | 平8 | 10.14～10.18 | 6人 |
| 平9 | 9.8～9.12 | 6人 | 平9 | 11.10～11.14 | 6人 |
| 平10 | 7.27～7.31 | 4人 | 平10 | 11.23～11.27 | 4人 |
| 平11 | 10.25～10.29 | 4人 | 平11 | 7.5～7.9 | 4人 |
| 平12 | 7.24～7.28 | 4人 | 平12 | 10.23～10.27 | 4人 |
| 平13 | 10.15～10.19 | 4人 | 平13 | 7.23～7.27 | 4人 |
| 平14 | 10.7～10.11 | 4人 | 平14 | 11.18～11.22 | 4人 |
| 平15 | 7.21～7.25 | 4人 | 平15 | 9月～10月(予定) | 4人 |

ウ 語学研修（平成3年度～）（国際交流課）

両県地方の相互理解を深め友好交流を推進するために、職員を相互に派遣し語学研修を行うとともに、留学生を受け入れる。

表2-1-19 職員派遣

| 年度 | 期間 | 人数 | 研修機関 |
|-----|------|----|------------------|
| 平3 | 3カ月 | 2人 | ハバロフスク教育大学 |
| 平4 | 3カ月 | 2人 | ハバロフスク教育大学 |
| 平5 | 3カ月 | 2人 | ハバロフスク教育大学 |
| 平6 | 10カ月 | 1人 | モスクワ人文大学ハバロフスク分校 |
| 平7 | 10カ月 | 1人 | ハバロフスク教育大学 |
| 平8 | - | - | - |
| 平9 | 10カ月 | 1人 | ハバロフスク教育大学 |
| 平10 | 10カ月 | 1人 | ハバロフスク教育大学 |
| 平11 | 10カ月 | 1人 | ハバロフスク教育大学 |
| 平12 | 10カ月 | 1人 | ハバロフスク教育大学 |
| 平13 | 10カ月 | 1人 | ハバロフスク教育大学 |
| 平14 | - | - | - |
| 平15 | 10カ月 | 1人 | ハバロフスク教育大学 |

研修生・留学生受入（留学生は平成11年度～）

| 年度 | 期間 | 人数 | 研修機関 |
|-----|------|----|--------------|
| 平4 | 3カ月 | 2人 | アップル外語観光カレッジ |
| 平5 | 3カ月 | 2人 | アップル外語観光カレッジ |
| 平6 | 3カ月 | 2人 | アップル外語観光カレッジ |
| 平7 | 10カ月 | 1人 | アップル外語観光カレッジ |
| 平8 | 10カ月 | 1人 | アップル外語観光カレッジ |
| 平9 | 10カ月 | 1人 | アップル外語観光カレッジ |
| 平10 | - | - | - |
| 平11 | 1年 | 1人 | 新潟大学 |
| 平12 | 1年 | 1人 | 新潟大学 |
| 平13 | 1年 | 1人 | 新潟大学 |
| 平14 | 1年 | 1人 | 新潟大学 |
| 平15 | 1年 | 1人 | 新潟大学 |

9 ロシア イルクーツク州との交流

(1) イルクーツク州の概要

| | |
|----------|--------------------------------|
| ア 面積 | 767,900? (日本総面積の2倍以上、新潟県の約61倍) |
| イ 人口 | 276.8万人(2001年) |
| ウ 州都 | イルクーツク市 人口59.1万人 |
| エ 人口構成 | ロシア人87%、ウクライナ人、ベラルーシ人など |
| オ 地方政府知事 | ゴヴォリン・ボリス・アレクサンドロヴィッチ |

(2) 本県との交流の経緯

当県とイルクーツク州は、平成3年6月の定期航空路開設を契機として、航空路利用促進キャラバン隊の受入れなどを中心に交流を行い、平成6年11月に「友好交流促進に関する基本協定」に調印した。その後平成8年6月に、県知事が同州を訪問し、当時のノジコフ州知事との間で基本協定の具体化に向けて協議を行いコミュニケに調印した。

これを受けて、平成8年度から県費留学生1名の受入れを行い、平成9年度は、環日本海駅伝競走へのイルクーツクチームの参加、イルクーツク州青少年舞踊団の県内公演など文化・スポーツ交流、平成10年度は、当県の青少年代表団をイルクーツク州に派遣し、公演、文化交流会等を実施した。

(3) これまでの交流の推移

| 実施年度 | 主な事業 |
|------|---|
| 平2 | イルクーツク沿岸貿易日本商品見本市参加 |
| 平3 | 新潟 - イルクーツク定期航空路開設 新潟 - イルクーツク線就航「友好の翼」使節団派遣 新潟 - イルクーツク線宣伝キャラバン隊受入 |
| 平4 | 新潟 - イルクーツク線宣伝キャラバン隊受入 |
| 平5 | 県議会代表団派遣 |
| 平6 | 新潟 - イルクーツク線宣伝キャラバン隊受入 新潟 - イルクーツク線宣伝キャラバン隊受入 ノジコフ知事来県、友好交流促進に関する基本協定書に調印 |
| 平8 | 知事を団長とする代表団派遣「友好交流推進に関するコミュニケ」に調印 県費留学生の受入れ開始 |
| 平9 | イルクーツク州青少年民族舞踊団来県、県内公演 ゴボーリン・イルクーツク州知事来県 |
| 平10 | 新潟県青少年代表団イルクーツク州訪問 州内公演、交流会実施 |
| 平12 | 観光開発促進ミッション派遣 |
| 平14 | 観光開発促進ミッション派遣 |

(4) 主な定期交流事業(国際交流課)

平成8年度から開始したイルクーツク州からの県費留学生1名の受入れを引き続き実施している。

表2-1-20 留学生受入

| 年度 | 期間 | 人数 | 受入機関 |
|-----|-----------|----|------|
| 平8 | 1年 | 1人 | 新潟大学 |
| 平9 | 1年 | 1人 | 新潟大学 |
| 平10 | 1年 | 1人 | 新潟大学 |
| 平11 | 1年 | 1人 | 新潟大学 |
| 平12 | 1年 | 1人 | 新潟大学 |
| 平13 | 1年 | 1人 | 新潟大学 |
| 平14 | 1年 | 1人 | 新潟大学 |
| 平15 | 先方事情により中止 | | |

10 韓国との交流

(1) 韓国の概要

朝鮮半島の38度線以南を占める共和制国家

| | |
|------|-----------------------------------|
| ア 面積 | 99,394? (日本総面積の約0.26倍、新潟県の約7.89倍) |
| イ 人口 | 約4,851万人(2002年) |
| ウ 首都 | ソウル特別市 人口 約1,028万人(2002年) |
| エ 元首 | 盧武鉉(ノ・ムヒョン)大統領(2003年2月就任、任期5年) |

(2) 本県との交流の経緯

昭和53年8月、新潟市に駐新潟大韓民国総領事館が開設されたことをきっかけに本格的な交流が開始された。

(3) その後の進展と主な出来事

| | |
|----------|---------------------------------|
| 昭和54年12月 | 新潟 - ソウル間 定期航空路開設 |
| 平成2年10月 | ソウル特別市に新潟県ソウル事務所設置 |
| 平成3年9月 | 新潟 - 釜山航路(高麗海運)開設 |
| 平成6年7月 | 新潟 - 釜山航路(興亜海運)開設 |
| 平成9年2月 | 新潟 - 釜山航路(汎洋商船)開設 |
| 平成14年8月 | 県立図書館とソウル特別市立南山図書館が友好交流協定締結 |
| 平成14年10月 | 朱鷺メッセとCOEX(韓国のコンベンションセンター)が姉妹提携 |

(4) 主な定期交流事業

ア 県費留学生受入事業(韓国からの受け入れ 昭和62年度~)(国際交流課)

新潟大学などの研究生として専門科目を研究するとともに、日本の風物・文化を体験することにより、友好親善関係の促進に寄与することを目的とする。

表2-1-21

| 年度 | 平7 | 平8 | 平9 | 平10 | 平11 | 平12 | 平13 | 平14 | 平15 |
|------|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 受入人数 | 2人 | 3人 | 3人 | 2人 | 2人 | 2人 | 2人 | 2人 | 1人 |

イ 海外技術研修員受入事業(韓国からの受け入れ 昭和60年度~)(国際交流課)

試験・研究機関や企業で必要な技術の習得により、韓国の発展に貢献する人材を養成するとともに、相互理解、友好促進に寄与することを目的に技術研修員の受入れを行った。

表2-1-22

| 年度 | 平7 | 平8 | 平9 | 平10 | 平11 | 平12 | 平13 | 平14 | 平15 |
|------|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 受入人数 | - | 1人 | 1人 | 1人 | 1人 | - | - | - | - |

(5) その他

ソウル特別市から、職員海外研修制度による職員の受入要請があり、平成14年度から2年間、1名を受け入れている。

- ・受入期間：平成14年11月～平成16年10月
- ・受入課：国際交流課(前半1年間)
産業振興課(後半1年間)

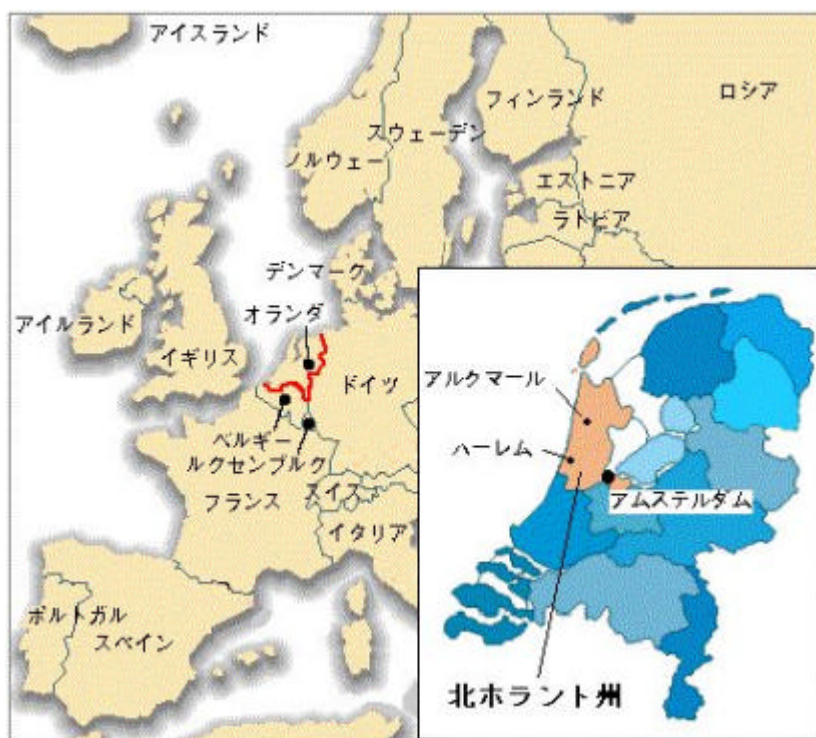
11 オランダ北ホラント州との交流

(1) 北ホラント州の概要

北ホラント州は、隣接する南ホラント州、ユトレヒト州とともにオランダ王国の中枢をなす州であり、州内最大の都市アムステルダムは、スキポール空港、アムステルダム港を擁し、ヨーロッパの交通の要衝の一つである。

| | | | |
|---|---|---|---|
| ア | 面 | 積 | 2,664? (新潟県の約1/5) |
| イ | 人 | 口 | 2,422千人 (新潟県とほぼ同じ) |
| ウ | 産 | 業 | 農業、水産業、商業、工業など、あらゆる産業がさかんであるが、特にチューリップ、ユリなどの花き球根栽培は、国際市場でも重要な位置を占める。また、アムステルダムを中心に金属、電気、化学、ダイヤモンド加工業などの工業が発達している。 |
| エ | 州 | 都 | ハーレム 人口約15万人 |
| オ | 知 | 事 | H.C.J.L. ボルハウツ |

図2-5 オランダ・北ホラント州



(2) 本県との交流の経緯

環日本海交流圏を越えた交流ネットワーク形成を目指すなか、ヨーロッパの自治体との交流を検討した結果、情報・文化、物流・交通における高い拠点性を有すること、世界的園芸地域であること、地勢・気候といった自然面でも当県と類似性を有することなどから、オランダの中心に位置する北ホラント州を交流相手として定めた。

平成9年10月、北ホラント州政府と今後の交流を協議するとともに、州内経済関係者との意見交換及び経済・物流施設の視察等を行うため、知事を団長とする訪問団を派遣、県知事と州副知事の間で、経済、技術協力、学術、文化など幅広い分野で交流と協力を積み上げていく旨の合意書を取り交わした。

また、この訪問に合わせ、北ホラント州アルクマール市において「北ホラント州新潟フェア」(平成9年10月21～24日)を開催し、当県の総合紹介、県内製品の展示、県内文化団体の実演等を行った。

(3) これまでの交流状況

【平成10年度】

- ・北ホラント州代表団の受入れ（平成10年10月10～16日）
ケメナーデ北ホラント州知事を団長と代表団を受入れ、県州経済人会議の開催や州側が新潟で行う州紹介展「北ホラント州フェア」への協力を行った。
- ・「北ホラント州フェア」の開催（平成10年10月12～13日）
- ・「全国都市緑化にいがたフェア」で「オランダ北ホラント州花壇」の設置（平成10年10月）
北ホラント州から提供されたユリ球根等により、都市緑化フェア会場内に花壇を設置した。
- ・新潟オランダ協会の設立（平成10年10月）

【平成11年度】

- ・新潟オランダ祭り '99の開催（平成11年4月）
- ・新潟県代表団の派遣（平成11年10月17～24日）
北ホラント州との経済交流を支援するため、平成10年に組織した県州経済人会議実行委員会を母体とした商工団体、農業団体からなる代表団を派遣し、県州経済人会議を開催した。
- ・経済セミナーの開催（平成11年10月19日）
アムステルダムで、北西ホラント商工会議所の協力を得て「経済セミナー」を開催し、両県州の企業関係者による個別経済協議を行った。
- ・ウエストフリーセ・フローラ（西フリースラントの花の博覧会）参加（平成12年2月18日）

【平成12年度】

- ・北ホラント州訪問団の受入（平成12年4月26日～5月1日）
フェルブルグ北ホラント州副知事を団長とする訪問団を受け入れ、今後の交流に係る協議するとともに、県州経済セミナー、園芸技術セミナー、日蘭交流400周年記念事業を実施した。
- ・オランダ北ホラント州経済セミナーの開催（平成12年4月27日）
新潟市内で、経済セミナーを開催し、両県州の企業関係者による個別経済協議を行った。
- ・園芸技術セミナーの開催（平成12年4月28日）
県園芸研究センターで、北ホラント州園芸関係者とともに園芸技術セミナーを開催した。
- ・日蘭交流400周年記念事業の開催（新潟オランダ祭り2000）
新潟ふるさと村「オランダ花いっぱい紀行」（平成12年4月25～30日）をはじめ、県内で各種の記念行事を開催し、県民レベルで交流を深めた。

【平成13年度】

- ・新潟オランダ祭り2001の開催（平成13年4月）
- ・新潟県代表団の派遣（平成13年5月13～20日）
平山知事を団長とし、県内の行政、経済団体、企業関係者から構成された代表団を派遣し、今後の交流拡大に係る協議を行うとともに、経済セミナーを開催した。
- ・経済セミナーの開催（平成13年5月14日）
北西ホラント商工会議所の協力を得て、ハイロー市において「経済セミナー」を開催し、企業間で個別経済協議を実施した。
- ・緑の交流と「記念植樹」（平成13年5月16日）
クルシウス農業学校（ホールン市）を訪問し、県州の友好交流を記念して植樹を行った。

【平成14年度】

- ・フロリアード2002への参加（平成14年6月～8月）
北ホラント州内で開催された「フロリアード2002」に県として屋内・屋外展示に出展した。
- ・県教育長他の派遣（平成14年7月）
板屋越県教育長が北ホラント州を訪問し、平成15秋の県立万代島美術館開館記念「オランダ絵画展」の開催意向書に調印するとともに、「フロリアード2002」ジャパンデー記念式典に参列した。
- ・北ホラント州小規模訪問団の受入（平成14年10月15日～18日）
J.H.J.フェルブルグ州副知事を団長とする小規模訪問団を受け入れ、交流に係る協議を行うとともに、「オランダ・花のフォーラム」の開催や球根寄贈セレモニーを行うことにより、県民レベルの交流の広がりを見ることができた。
- ・北ホラント州からのチューリップ球根寄贈
州小規模訪問団来県時に寄贈された。
県内の全ての小学校へオランダ産チューリップを配布（約640校に各100球）
県内小学校での球根寄贈セレモニー開催（中条小学校）（平成14年10月16日）

12 北東アジア交流圏の形成（企画課）

(1) 概 況

本県は、地理的、歴史的な優位性を活かし、中国の東北三省、ロシア極東地域、韓国、モンゴルなど北東アジア地域との連携のもとで、より実践的な交流や圏域内での協力の推進に努めるなど「北東アジア交流圏」の形成を目指している。また、世界に開かれた交流の拠点として、各種イベントの実施、情報発信機能の強化など「人・もの・情報」の交流の拡大に向け積極的に展開している。

(2) これまでの北東アジア地域との交流状況

| 年度 | 内 容 |
|-------------|--|
| 昭和48（1973）年 | 新潟 - ハバロフスク間定期航空路開設 |
| 昭和54（1979）年 | 新潟 - ソウル間定期航空路開設 |
| 昭和58（1983）年 | 友好県省提携締結（黒龍江省） |
| 昭和59（1984）年 | 黒龍江省人民代表大会常務委員会代表団受入開始 黒龍江省留学生受入開始 |
| 昭和60（1985）年 | 黒龍江省医師等研修生受入開始 県議会訪中団を派遣開始 |
| 昭和61（1986）年 | 県・黒龍江省青年交流事業を開始 |
| 昭和63（1988）年 | 県・黒龍江省友好提携5周年記念事業を実施 県・黒龍江省経済交流促進会議を開始 |
| 平成元（1989）年 | 県職員派遣研修事業を開始（黒龍江省） |
| 平成2（1990）年 | 県省定期会議を開始（黒龍江省） |
| 平成3（1991）年 | 県・黒龍江省スポーツ交流を開始 県・黒龍江省教育交流事業を開始 ウラジオストク市へ日本語教師派遣開始 語学研修生派遣開始（ハバロフスク地方） 新潟 - イルクーツク間定期航空路開設 |
| 平成4（1992）年 | 県・黒龍江省職業訓練指導者相互派遣事業を開始 県・黒龍江省水産研究者相互派遣事業を開始 新潟 - ウラジオストク姉妹港協定調印 語学研修生派遣開始（沿海地方） 県費留学生受入開始（ハバロフスク地方） |
| 平成5（1993）年 | 黒龍江省からの国際交流員招致を開始（JETプログラムによる） 黒龍江省中国語語学講師受入を開始 県・黒龍江省友好提携10周年記念事業を実施 新潟 - ウラジオストク間定期航空路開設 県費留学生受入開始（沿海地方） 県・地方定期会議の開始（沿海地方、ハバロフスク地方） 行政事情研修職員相互派遣開始（ハバロフスク地方） |
| 平成7（1995）年 | 県・黒龍江省物産の常設展示場を相互に設置 ・黒龍江省産品常設展示場（三条市） ・新潟県産品常設展示場（哈爾濱市） |
| 平成8（1996）年 | 吉林省留学生受入開始 県立海洋高等学校の航海訪問の開始（沿海地方） 県立女子短期大学学生の短期語学体験研修開始（ハバロフスク地方） 新潟アジア文化祭への招聘開始（沿海地方、ハバロフスク地方） 県費留学生受入開始（イルクーツク地方） |
| 平成10（1998）年 | 黒龍江省環境技術研修生受入開始 新潟 - 哈爾濱定期航空路開設 県・黒龍江省友好提携15周年記念事業実施 |
| 平成14（2002）年 | JICA草の根技術協力事業（黒龍江省：医療、寒冷地舗装）実施 県立図書館とソウル特別市立南山図書館が友好交流協定締結 朱鷺メッセとCOEX(韓国のコンベンションセンター)が姉妹提携 |
| 平成15（2003）年 | 県黒龍江省友好提携20周年記念事業実施予定 |

(3) 「北東アジア経済会議イン新潟」の開催

環日本海地域の交流促進のため、平成元年度から「環日本海交流圏新潟国際フォーラム」等を開催してきたが、平成7年度からは、モンゴルを含めた北東アジア地域の経済開発や経済交流に関するテーマについてより具体的に議論を行うため「北東アジア経済会議」を開催している。

また、「北東アジア経済会議」における議論や政策提言の内容を充実させ、より実質的な成果を生み出す会議とするため、平成12年1月に関係国の有識者による「北東アジア経済会議組織委員会（事務局：（財）環日本海経済研究所）」を設立した。また、組織委員会の運輸・物流常設分科委員会では、9本の国際物流ルートの現地調査、研究分析を行い、現状、課題と整備の方向性をまとめた「北東アジア輸送回廊ビジョン」を策定し、整備の推進に向けた提言を行うなど、経済会議を組織・運営していくための諸活動を継続的に行っている。

・これまでの北東アジア経済会議等の開催状況（場所：新潟市）

| 開催年月 | 名 称 | 参 加 国 |
|---------|-------------------------|-----------------|
| 平成2年2月 | 環日本海交流圏フォーラム | 日 |
| 平成3年2月 | 環日本海交流圏新潟国際フォーラム | 中、韓、ソ、米、日 |
| 平成4年2月 | 環日本海交流圏新潟国際フォーラム '92 | 中、韓、口、朝、日 |
| 平成5年2月 | 環日本海交流圏国際フォーラム '93 イン新潟 | 中、韓、口、米、日 |
| 平成6年2月 | 環日本海ステージ '94 | 中、韓、口、米、日 |
| 平成7年2月 | 第5回北東アジア経済フォーラム・新潟国際会議 | 中、韓、モ、口、米、英、日など |
| 平成8年2月 | 新潟・北東アジア経済会議 '96 | 中、韓、モ、口、朝、日 |
| 平成9年1月 | 新潟・北東アジア経済会議 '97 | 中、韓、モ、口、米、日 |
| 平成10年2月 | 新潟・北東アジア経済会議 '98 | 中、韓、モ、口、朝、米、タ、日 |
| 平成11年2月 | 新潟・北東アジア経済会議 '99 | 中、韓、モ、口、米、日 |
| 平成12年1月 | 新潟・北東アジア経済会議2000 | 中、韓、モ、口、米、日 |
| 平成13年2月 | 北東アジア経済会議2001イン新潟 | 中、韓、モ、口、米、日 |
| 平成14年1月 | 北東アジア経済会議2002イン新潟 | 中、韓、モ、口、米、澳、日 |

[凡例] 日・・・日本、中・・・中華人民共和国、韓・・・大韓民国、ソ・・・ソビエト社会主義共和国連邦、
米・・・アメリカ合衆国、モ・・・モンゴル国、英・・・英国、朝・・・朝鮮民主主義人民共和国、
口・・・ロシア連邦、タ・・・タイ王国、澳・・・オーストラリア共和国

(4) 「北東アジア地域自治体連合」

ア 経 緯

平成8年9月に韓国の慶尚北道で開催された「北東アジア地域自治体会議 '96」において、この地域の自治体で構成される永続的な国際組織である「北東アジア地域自治体連合」が設立され、本県も加盟した。

イ 目 的

北東アジア地域自治体が互惠・平等の精神に基づき、関係自治体間の交流協力ネットワークを形成することによって、相互理解に即した信頼関係を構築し、北東アジア地域の全体的な発展を目指す。

ウ 加盟自治体（6か国・40自治体 / 平成15年4月現在）

- 日 本： 青森県、山形県、新潟県、富山県、石川県、福井県、京都府、兵庫県、鳥取県、島根県、山口県（11）
- 中 国： 遼寧省、黒龍江省、河南省、山東省、寧夏回族自治区（5）
- 韓 国： 慶尚北道、慶尚南道、江原道、京畿道、忠清南道、忠清北道、全羅北道、全羅南道、済州道、釜山広域市（10）
- ロ シ ア： プリャト共和国、サハ共和国、沿海地方、ハバロフスク地方、アムール州、イルクーツク州、

加チャカ州、サハリン州、チタ州、ウチオダ・ブリアト共和国（10）
モンゴル： 中央県、セレンゲ・アイマク県（2）
北朝鮮： 咸鏡北道、羅津・先鋒市（2）

エ 主な事業

首長レベルの総会の定例的な開催、実務委員会の定例的な開催、地域間経済・技術及び開発に関する情報の収集・提供、交流・協力に関する事業の支援及び推進など

(5) (財)環日本海経済研究所（略称：ERINA）

北東アジア地域の経済に関する情報の収集・提供や調査研究等を行うことにより、わが国と同地域との経済交流を促進し、北東アジア経済圏の形成と発展に寄与するとともに、国際社会に貢献することを目的として、平成5年10月に通商産業大臣（現：経済産業大臣）の許可を得て設立された。

〔主な事業概要〕

情報の収集・提供

北東アジア地域の経済に関する情報を広く収集して各種データベースを構築するほか、情報誌「ERINA REPORT」などの発行及び情報提供セミナーを開催している。また、インターネットの活用により広く国内外に情報提供を行っている。

調査研究

北東アジア地域の経済の現状を分析し、発展の条件を探り、北東アジア経済圏の形成を促進するための調査研究を行っている。

セミナー・シンポジウム等の開催

北東アジアの経済事業や地域情勢に関するセミナー、講演会等を県内外で開催している。

企業国際交流支援

民間企業の北東アジア諸国との経済交流を支援するため、貿易関税や投資環境等の一次情報の蓄積・提供、企業支援ネットワークの構築、企業向けセミナーの開催などを行っている。

〔主な出捐者〕

新潟県、新潟市、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、群馬県、長野県、富山県、石川県、民間企業7社